

俳句的なことがら

(4)

郷里の俳匠

中嶋 嶺雄

俳句をつくらない私なのに、俳人として活躍されている方を何人か存じあげている。「天為」主宰者の有馬朗人先生(元東大総長)からはよく句集を頂くので恐縮しているが、郷里の御縁では、まず藤岡筑郎先生をあげなければならぬ。筑郎先生は、終戦直後の昭和二十二年に結社を超えた中信俳句作家クラブを私の父(晴陽)らと立ちあげたお仲間で、その事務所と機関誌(「雷鳥」)発行所を兼ねていた中町二丁目我が家へよく来られた。私は小学生時代から存じあげている。やがて深志高校では国語(古文)の先生としてご指導いただいた恩師でもある。だから主宰誌「りんどう」に私のエッセイを求められたときには光栄に思い、私が巻頭随筆を書いた同じ号同じ欄の「文藝春秋」(一九九二年五月号)に「句帳から 藤岡筑郎」が掲載されたときには、とても嬉しかった。

「岳」の主宰者・宮坂静生氏は、小・中・高校を通じて私の一年後輩である。しかも清水中学校時代には私が編集した校内誌「窓」に気象に関する文章を書いてくれたこともある。氏が子規研究で業績をあげたり、山本健吉文学賞を受賞したり、「岳」編集長の小林貴子さんが現代俳句協会賞を受賞したりした中などは嬉しいニュースである。しかも「岳」には、私が中学一年に英語を習った木倉フミエ先生が同人として活躍されている。宮坂君は信州大学医療短大部長だったので、信大の運営諮問会議でお会いすることもあった。

そして信濃俳句会の主宰者・佐藤文字さんに出会ったのである。佐藤さんには、「松本タウン情報」の連載「私の半生」の第一回目に私を取り上げていただいた。のびやかな透明感のある本誌が佐藤主宰のもとで、ますます充実してゆくことを、大いに期待している。

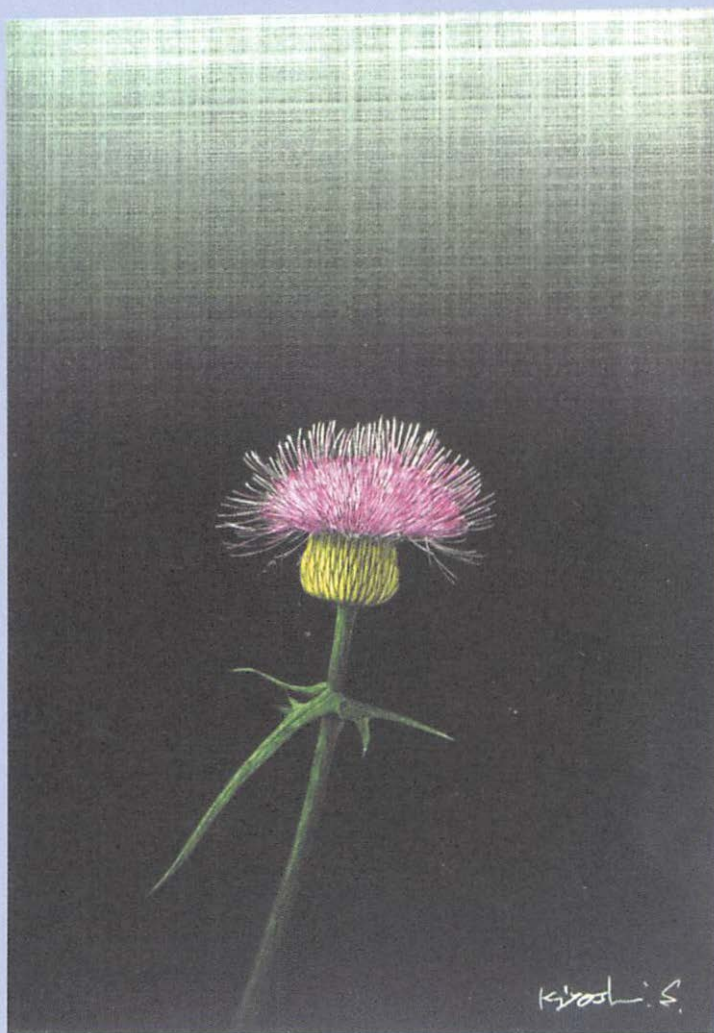
(国際社会学者)

由次(217号)

俳句的なことがら(4)	表紙絵	斎藤 清	1
俳冠抄	題字	佐藤 嶺雄	2
風の Rond			3
春しぐれ		佐藤 文字	4
チンドン屋		恒成 巧	5
俳句アングル			6
邂逅集			18
粹集			25
しなの茶房	中村 如水・堀	恒人	26
風発	村越 還・深山	臯月	27
溪流	羽鳥 貴子・手塚	卓	28
青嶺集			36
青樹集			37
萌芽集			38
一句の衝撃	井口 紫月・沢	たか女・井川しずく	39
一句一会	平林 木子	織田 美英	40
久女雑感(14)	増田	連	41
エッセイ	恒成	巧	42
五句選	惠鶴	保昌・吉瀬	43
万華鏡	丁字	赤羽 幹石	44
せせらぎ	高橋	美穂	45
例会作品・文箱			

平成七年四月十九日 第三種郵便物許可
平成十五年四月十日発行(毎月一回十日発行)
第十九卷第四号四月号(通卷二七号)

信濃俳句通信



2003 4月号